

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立津幡高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
1 基本的な生活習慣の確立(挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底)	① 教職員が率先して挨拶に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート(保護者)94%	生徒指導課 昨年度最終94%、今年度中間94%と同水準を維持している。今後は生徒会、部活動と連携し、さらに意識を高めていきたい。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート(生徒)98%	生徒指導課 昨年度最終95%、今年度中間97%と生徒が服装容疑やマナー面に関しては向上するよう意識してくれているようである。今後も進路指導課と連携し、将来の進路実現のためにも意識を高く持つよう指導していきたい。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数が過去5年間の平均値と比べて、変化率が A 10%以上の減少である。 B 10%未満の減少である。 C 10%未満の増加である。 D 10%以上の増加である。	B 過去5年間の12月までの総遅刻数の平均値と比較して -1.7%	生徒指導課 今年度中間報告では2.5%増加でC評価であったが、11月に遅刻防止週間の取り組みを行い、ある程度効果が得られたようである。2回目の取り組み期間を設定し実施しているので、さらに効果があれば来年度の実施も検討したい。
		遅刻をしない、減らすように努めている生徒が A 100%である。 B 90%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート(生徒)96%	生徒指導課 今年度中間報告は97%であったので、ほぼ同水準を維持しているが、100%に向け、複数回遅刻した生徒との面談や防止週間の取り組みを実施していきたい。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	積極的に教室内の整理整頓に努めた生徒が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C 12月の教育活動に関するアンケート(生徒)88%	保健環境課 7月アンケートより生徒の環境美化に対する意識は高まっているが、昨年度7月の89%に届かなかった。大規模修繕が終了し、その環境を長く維持できるよう、より一層、生徒の校内美化の意識を高められるよう取り組んでいきたい。
⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援して、いじめ等を防止し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 80%である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート(生徒)82%	教育相談課 スクールカウンセラーや相談担当教員がじっくりと話を聞き、それを解消できるように努めてきた。また、気になる生徒にはこまめに声をかけ、生徒の声を聞くようにしてきた。今後も、生徒への声かけを継続し、保護者との連携を図り、生徒が不安なく生活できるように支援していきたい。	
学校関係者評価委員会の評価	生徒の規範意識を高めて欲しい。学習机やロッカーなどを整理し、集中して学習に取り組める環境づくりを行って欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	遅刻防止週間に取り組み、結果を表彰したことで生徒の意識が高まったように感じる。次年度の実施も検討したい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。（やる気を高める授業の実践、GIGAスクール構想の推進、体力の増進、生徒の進路意識の向上）	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、やる気を高める授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 12月による授業評価で肯定的評価（生徒）89%	教務課 授業アンケートで「わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられる」と答えた生徒が80%以上（B）であることは、授業が多く生徒にとって理解しやすく魅力的だと評価されていることと思われる。一方、約1割の生徒が「工夫が不足している」と感じている点は課題といえる。実生活との関連性や体験的な学びを取り入れることが有効と考える。さらに、具体的な改善ポイントを把握するために、生徒の自由記述や意見を収集することも大切と考える。
	② GIGAスクール構想の推進を図る。	1日6時間（火曜のみ7時間）の授業、ホームルーム等での活動にクロムブックを2回以上活用していると答える生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である C 60%以上である。 D 60%未満である。	D 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）51%	教務課 教員間での活用事例の共有や研修を通じて、授業内での具体的な活用方法を増やすことが必要と思われる。また、活用例などの研修の機会を増やし、ネタを仕入れる必要があるのではないかと考える。また、生徒が自発的に活用するためのスキル指導やChromebook活用のメリットを明確に伝える取り組みが必要だろうと考える。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	B スポーツテストの結果 73%	体育管理課 前年度の自己記録を超えた生徒138人（2、3年生）73%の生徒が体力合計点数が向上した。また、どの学年も全国平均と比較して、ほぼ同様もしくは優れているという結果であった。バランスも良くこれからの指導によって、まだまだ伸びる要素を持っているため、今後も継続して取り組んでいきたい。
	④ 個々の進路希望に沿って丁寧な支援を行い、確実に進路希望の実現を図る。	進路決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	B 98%	進路指導課 1月末現在で、2名が進路未決定であるが、年度内には進路が決まり、最終的には100%になる予定である。進学については、スポ科を中心に目的意識を明確に持ち、各自に適した受験方式を選択した上で合格している。就職については今年度も求人倍率は高く、生徒はほぼ第一希望の企業に内定をいただくことが出来た。
学校関係者評価委員会の評価	互見授業を通して、今後も授業規律やICTの有効な活用法、授業の展開の仕方などアドバイスおよび共有すると良いと思われる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	互見授業を行うことで自分の授業を見直し刺激を受けることができた。次年度は受けたアドバイスを活かした授業となるよう授業研究に努めたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動・生徒会活動の効果的、計画的な実践と地域社会と連携した活動の推進および速やかな情報発信 (全国大会での上位入賞、地域活動の推進、情報発信)	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングや実技指導を行う。	全国大会に出場した部活動が A 8部以上である。 B 6部以上である。 C 5部である。 D 5部未満である。	B 全国高校総体等に7部出場(男女柔道、ウエトリテイク、ローイング、なぎなた、射撃、女子バスケボール)	体育管理課 女子バスケボール部(2名)が国スポ大会に出場し7部が全国大会への出場を決めた。外部活動でボクシング競技に1名出場した。中学校部活動から高校部活動への環境の変化に順応できるよう、個々に応じたきめ細かな指導を心がけ、1つでも多くの部活動が全国大会に出場できるよう努める。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート(生徒) 82%	体育管理課 中間報告以降も大雨や高温による熱中症予防や感染症対策のため、予定通り活動できないことがあった。各部練習体制の見直し等により、想定外の場合を念頭に計画的に実行できるように工夫し、効率の良い指導を心がけ、競技力の向上に取り組んでいきたい。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート(生徒) 85%	生徒会課 中間報告よりも4%アップ、前期に引き続き報告会や壮行式、津高祭など生徒主体の生徒会活動になるよう課題を持って取り組んできた結果である。今後も生徒主体の生徒会活動を勧めていきたい。
	④ 様々な地域活動(ボランティア等)に参加する生徒を増やし、社会貢献の必要性、他者と協働する意識を高める。	様々な地域活動(ボランティア等)に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	D 12月の教育活動に関するアンケート(生徒) 37%	生徒会課 中間報告から8%向上した。しかしスポーツ健康科学科の生徒による津幡町小学校体育大会への補助員としての活動等を地域活動へ参加したという実感が持っていない。活動前後に地域と繋がっていることを伝えていきたい。
	⑤ 学校通信(校内、地域)の発行やHP・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のHP・学校通信の内容や学校配信メールの発信内容が充実していると感じている保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート(保護者) 87%	総務課 満足している割合が87%となり、令和5年度より向上した。しかし以前より更新されていない部分は多くある。今後も学校行事の様子や部活動の活動結果を随時更新することやメール配信等の情報発信をきめ細かく発信し、継続した取り組みに努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	情報発信が大切である。HPの充実はもちろん、生徒会が担当するなど生徒主体で取り組んでみると良いと思われる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	「魅力ある学校づくり」のためにも生徒が主体的に活躍する場面を多く設けていきたい。学校説明会での説明や津幡町のイベントへの参加など地域とのつながりも積極的に参加していくよう仕掛けていきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 教職員の時間外勤務を削減することによる教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	① 教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	月80時間以上の時間外勤務のある職員の延べ人数が A 0人である。 B (月数×1人)以下である。 C (月数×2人)以下である。 D Cを上回る。	C 12月までの9ヶ月で時間外勤務時間80時間を超える人数が 10人	R6年度中間評価：C（8人） *中間評価4カ月 R5年度最終評価：D（22人） *最終評価9カ月 R5年度中間評価：D（11人） 徐々にではあるが減少している。80時間を超える職員は部活動における休日の指導や大会への参加等から、削減について難しい面もあるが、今後もワークライフバランスの実現に向けて取り組んでいきたい。
		(全教員)タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート(教職員) 89%	R6年度中間評価：89% R5年度中間・最終共に77% 89%：A評価で中間評価と同評価であった。しかし、内訳を比較すると「十分取り組んでいる」と回答した職員は減少している。また、「あまり取り組んでいない」職員が中間評価と同じ人数である。ICTの活用、各課・学年の校務の割り振りの工夫など今後も働き方の意識の醸成と環境の整備に取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		常に働き方改革を意識して、校務にあたって欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		効率的な部活動指導、ICTの効果的な活用などによりワークライフバランスの実現につなげ、心身が整った状態で生徒と接したり校務にあたるように取り組む。		

